感染研発第５７５号
平成２８年１２月９日

各関係機関の長　　殿

国立感染症研究所長
（公印省略）

研究職員の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度当所では下記のとおり研究職員を募集することになりました。
つきましては、貴下職員にご周知下さるようお願い申し上げます。

記

１．職名等

職　　名	業　　務　　内　　容	応　　募　　資　　格
ハンセン病研究センター感染制御部 第六室 任期付研究員 （募集人数１名） 任期：採用予定日より２年 ※　任期付研究員としての再任はありません。 ※　任期満了後に任期の定めのない官職の公募に応募することは差し支えありません。	感染制御部は、ハンセン病その他の抗酸菌に起因する疾病に関し、次に掲げる事務をつかさどる。 １）微生物学的、生化学的及び分子生物学的調査及び研究を行うこと。 ２）実験動物学的及び免疫学的調査及び研究を行うこと。 ３）抗らい菌療法の開発及び改良に関する調査及び研究を行うこと。 第六室においては、結核菌その他の抗酸菌の潜伏再燃慢性化機構に関する病原体因子及び宿主因子の解析及び病変増悪因子の解析に関する調査研究並びにこれらに関するレファレンス業務に関することをつかさどる。 うち採用予定官職では次の業務を行う。 １）結核菌その他の抗酸菌の潜伏慢性化機構に関する病原体因子およびその薬剤感受性の解析 ２）結核菌その他の抗酸菌の潜伏再燃慢性化機構に関するレファレンス業務	１．結核菌等の抗酸菌感染症の感染機構・生体防御機構に関する知識を有すること ２．分子生物学的研究業績や経験を有すること ３．協調性を有すること ４．国際協力にも対応できること ５．大学院博士課程終了後４年以内の学位（博士）取得者、若しくは同等と認められる者 ※上記１～５を満たすこと

２．提出書類
(1)履歴書（市販用紙使用、高等学校卒業以降を記入し、写真を貼付。）
(2)主要研究概要（１，２００字以内）
(3)応募職の業務内容に関する抱負（１，０００字以内）
(4)業績目録（Ａ４版縦　横書き、別紙参照）
(5)論文別刷（１編以上）
(6)学位記（写し）又は学位を証明するもの（Ａ４に縮小すること）

３．書類提出先及び提出方法

〒１６２－８６４０　東京都新宿区戸山１－２３－１　国立感染症研究所　所長　倉根　一郎

※　応募書類の封筒に、「ハンセン病研究センター感染制御部　第六室　任期付研究員　応募」と朱書きの上、所長あて親展として書留にて郵送してください。なお、提出された書類は返却いたしません。

４．応募締切日　　平成２９年１月１３日（金）必着

５．採用予定日　　平成２９年４月１日（予定）

６．任期　　採用予定日より２年

※１　任期付研究員としての再任はありません。
※２　任期満了後に任期の定めのない官職の公募に応募することは差し支えありません。
※３　一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律第３条第１項第２号によって国立の試験研究機関に任期付研究員として採用されたことのある方は応募できません。

７．処遇

（１）給与は、「一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律（平成９年６月４日法律第６５号)」等に基づき、知識経験等を勘案して決定します。
（２）１週間当たりの勤務時間は、３８時間４５分（週休２日制）です。
（３）年２０日の年次休暇（採用の年は、採用の時期により２０日より少ない日数となります。）のほか、特別休暇（夏季・結婚・忌引・ボランティア等)、病気休暇の制度が整備されています。

８．選考採用試験スケジュール

（１）第１次審査（書類選考）　平成２９年１月１６日（予定）
（２）第２次審査（面接試験）　平成２９年１月２３日（予定）
※　第１次審査（書類選考）を通過された方には、当方から第２次審査（面接試験）に関する連絡をいたします。

９．勤務地　　国立感染症研究所ハンセン病研究センター　東京都東村山市青葉町４－２－１

１０．問い合わせ先

国立感染症研究所　総務部総務課人事係　寺本
０３－４５８２－２６２５　　E-mail:jinji@nih.go.jp

１１．国立感染症研究所ホームページＵＲＬ

http://www.nih.go.jp/niid/ja/

業績目録

氏名＿＿＿＿＿＿

1．著書

2．学術論文（学会誌発表等）

（1）欧文

（2）邦文

3．学会発表（講演・発表等）

4．外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

（記入上の注意事項（共通））
1．上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すること。

2．年代の新しいものから順に記載すること。

3．発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。
（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）

4．欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（　）書で和訳を記載すること。

5．各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他は（他））

6．著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。

7．長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

（参考例）

1．著書

①労働太郎、厚生太郎
（他炎症の組織病態
〇〇社，PP.67-87，1989

2．学術論文

（1）欧文
①Taro kousei、Jiro Kousei、Saburou Kousei、Tarou Roudou、Jiro Roudou、Saburou Roudou
（筆）An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA , 2002
（〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ）
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

（2）邦文
①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎
（筆）An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004
（〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪）
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3．学会発表

①厚生太郎
（単）ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について
第25回日本病理学会総会，東京，1989

4．外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

①厚生労働省、〇〇（課題名）
期間：平成〇〇年～平成△△年、金額〇〇〇円／年

②科学研究費補助金、（課題名）□□□□□
期間：平成〇〇年～平成△△年、金額〇〇〇円／年